

凡 例

1 項目

現在の神奈川県域が歴史の舞台として登場する中世以降の史料のうち、特に県域に関連の深いもの、一定の評価を受けているもの、あるいは他の史料をもって代えることができない内容を含んでいるもの55点（叢書を含む）を選定した。

<選定に使用した基本図書>

『国史大辞典』吉川弘文館

『史籍解題辞典』竹内理三ほか編 東京堂出版

『群書解題』続群書類従完成会

『郷土資料解説目録』神奈川県立図書館

2 構成

(1) 本編

本編は、史料の内容により「史書」「地誌・紀行」「思想（法・倫理・民政）」「古文書・日記・記録」「近代史料」「叢書」の6章に分け、各章内は、原則として史料の成立年代順に配列した。ただし、内容や関連する文献を考慮し、一部その限りではない。

<記載した項目>

① 史料名

異名同書がある場合、『国史大辞典』の項目を参考に一般的と思われる史料名を採用した。その場合、異名は本文中で紹介し、キーワードとして挙げた。

② 作者名

史料の著述や編纂に当たった個人または組織・団体を「作者」と総称した。作者が特定の個人の場合には、生没年を（ ）内に補記した。

③ 成立年代

成立年代が明らかでない史料については、限定できる範囲内での記述とした。また、諸説ある場合には、最も一般的と思われる年代とした。

④ 解題

史料の成立、内容、作者、諸本を中心に記述した。

⑤ *Keyword* (キーワード)

当該史料に関連する人名、地名、史料名、その他の事項を、解題本文から抽出してキーワードとした。

⑥ 構成

利用の便宜を図るため、史料本文の構成を必要に応じて記載した。

⑦ 史料本文を読む

史料本文を掲載・収録する当館所蔵資料（一部、未所蔵を含む）を「写本」「版本」「影印本」「複製本」「翻刻本」「覆刻本」「注釈本」等に分けて記載した。なお、これらの項目については巻末の「書誌学用語解説」を参照されたい。

⑧ 史料についてさらに知る —参考文献—

当該史料を知るための主な参考文献を、おおむね刊行年順（発表年順）に列記した。

(2) 付録

① 神奈川県関係史料年表

成立年代がある程度明らかな史料について、年表形式で記載した。史料に関連の深い事柄、歴史上の大事件等も含めて記載し、史料成立時期を捉えやすいようにした。

② 古典籍所蔵機関解説

本文中で紹介した古典籍所蔵機関のうち主なものについて概要を紹介した。

③ 書誌学用語解説

「史料本文を読む」の各項目及び解題本文に頻出する書誌学用語について解説した。

④ 総索引

項目として挙げた史料名（叢書名）、作者名及びキーワードを一括して五十音順の索引とした。

3 書誌事項について

- ・書誌事項として、書名、著编者名、出版者、出版年、当館請求記号を記載した。図書の一部あるいは一論文の場合には、著者名、論文名（章名）の後に、それを収録する図書または雑誌の書誌事項を（ ）内に記載した。なお、記載にあたっては、以下の記号を用いた。

●：1冊（巻）としてまとまりを持つ資料（図書）

◆：図書の一部、あるいは一論文

*：当館未所蔵文献

[]：当館請求記号

雑誌の巻号：巻→vol. 号→（ ）

- ・「史料本文を読む」に挙げた次に文献は、原則として全項目共通で以下の版を用い、書誌事項の記載は省略した。

『群書類従』改訂3版 続群書類従完成会1971-1972 [K08/17]

『続群書類従』第2版 続群書類従完成会1923-1928 [081/2]

4 その他

- ・漢字は、固有名詞、史料名などの一部を除き、原則として新字体を用いた。そのため、当館の所蔵データの字体と一致しない場合もある。
- ・年の表記は原則として和暦を用い、必要に応じてそれに対応する西暦を補った。また、太陽暦採用以前の月の表記は、原則として旧暦である。
- ・本文中で解説した諸本の所蔵状況は、『国書総目録』（岩波書店）等の文献に記載された情報を元にしており、必ずしも現時点での所蔵を確認したものではない。
- ・本文中の史料所蔵者名や研究者名は、原則として敬称を略して記載した。